

霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2010

去る8月21日（土）に、霞ヶ浦水質浄化協調月間（海の日～9月1日）のメインイベント「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2010」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、県内外から約6,500名のおお客様にご来場いただきました。

今年は、環境保全団体等による出展・センター研究室の一般開放・クイズラリー・投網体験教室・アクリルたわし教室などお馴染みのイベントに、新しくパートナーブースの出展やマジックショーなどが加わり、大変な盛り上がりを見せました。また、多目的ホールでは「つなごう!森林と湖沼・河川」と題した環境フォーラムを開催、県内の環境保全に取り組む団体による活動報告や意見交換が行われました。

残暑厳しい中での開催となった夏まつりでしたが、パートナーの皆様のご協力を得て、大盛況のうちに終えることができました。ありがとうございました。（センター：中根）



夏まつり2010 パートナー出展ブースの紹介

毎日続く猛暑、恒例の霞ヶ浦環境科学センター「夏まつり2010」が盛大に開催されました。

我々パートナー活動も今年で6年目を迎え、その節目として初めてパートナー出展ブースを設置することができました。出展に際し、センターや関係市民団体、そしてパートナー各位の温かいご支援をいただきました。あらためてお礼申し上げます。

出展にあたり、多くの方にセンターパートナーの活動状況を知っていただくことを主旨に、各グループの活動状況パネル掲示。来場者の皆様が楽しく参加できるよう折り紙つくりやクイズの出題、そして正解者には外れ無しのクジ引きなどで、ささやかな賞品を差し上げて喜んでいただきました。

今回のパートナーブース出展にあたり、センター関係者及びパートナー有志で実行委員会を発足し、地道に準備を進めてきました。できるだけ華やかにそしてパートナー活動状況のPRができるよう、慣れない手つきで汗だくになり、飾り付けをしました。私たちのブースに来てもらえるのだろうかとの心配もありましたが、多くの親子連れに参加していただき、大変盛り上がりました。

初めての出展で反省するところは多々ありますが、他の市民団体の活動内容などを知ることもでき参考になりました。何よりの収穫は、盛況のうちに無事終了できた安堵感とともに「自信」という大きな成果を得ることができたことです。

来年もまた、2回目の出展ができるようセンター関係者や市民団体の皆様方と連携を深め、より多くのパートナーの参加を得て、来館者が楽しめる企画を提案したいと考えております。（企画部会：尾形）



夏まつり2010

パートナーが大活躍 !!!

8月21日に開催された“夏まつり2010”には、総勢40名のパートナーの方々がセンター主催イベント・教室の運営スタッフとして参加されました（センター職員を含めた総スタッフ数は106名）。

当日は各担当イベント・教室に分かれて開場前の準備から来場者への応対と一日中大活躍でした。

炎天下の暑い1日、お疲れさまでした。

当日の様子の一部をスナップでお届けします。また、下記のイベント・教室以外にも‘本部・環境フォーラム’‘リユース食器’‘記録’業務を担当されたパートナーの方々もおります。特に、ごみ削減のためにリユース食器の回収を担当された方は暑い飲食コーナーでの業務、本当にご苦労さまでした。



駐車場係

開場前から来場される車の誘導・案内。
炎天下の暑い1日、若さでのりきりました

おもしろ水実験教室



開始前に全員で内容の確認。
大勢の参加者で超忙しい。
科学の不思議を体験してもらえたかな。

投網体験教室

初めての方にも丁寧に教えてあげました。
トライした方は実際に湖岸でチャレンジしたい様子でした。



子供から大人まで、指を動かしたワシ作り。
水質浄化に役立ててもらえますように。

アクリルタワシ教室



ミジンコペーパークラフト教室

結構難しいよ。
お父さん・お母さんの方が真剣だったりして。

竹とんぼ教室



読み聞かせ

面白かったかな



クイズラリー

恒例のクイズラリーは大盛況。受付・答え合わせと大忙しの1日でした。



(企画部会：安川)

平成 22 年 6 月 植物グループ「湖岸植物 定点観察」パートナー活動の抄録

【A・B区 観察の概況】 観察日：2010-6-30(水)

6月、不快な梅雨の季節も植物にとっては最良の成長期、ヨシ、ガマ、オギなど野草の群落は絶好調。南北再生地の新しく掘った池にサジオモダカが群生して出現!!!アサザも元気に育っている。



サジオモダカ (トケガカ科) 直立した茎から多数の小枝が、その先に蕾が。

ガマ (ガマ科) 再生地池畔に群生。黄色の上部は雄花、下部は雌花。

アサザ (ミツガシコ科) 県指定希少種 センター前庭の池から移植したもの。

【E・F区 観察の概況】 観察日：2010-6-30(水)

梅雨の季節となり、ビナンカズラ、ノブドウ、アオツズラフジ、イシミカワ、ガガイモなどの「つる性植物」が、一斉に伸び始めました。



アカメガシワ(♀) (トケガカ科) 雌雄 異株です。雌花, 3~4本の花柱がある。花弁はない。雄しべが多数。

アカメガシワ(♂) 萼は薄い黄色、

ハンゲシヨウ (トケガカ科) 花期には虫を呼ぶため葉が白くなる

【G・H区 観察の概況】 観察日：2010-6-30(水)

ショウブやヤナギトラノオは実となり、クサヨシやホソバノヨツバムグラが花を咲かせ、ミクリとノアズキは大きく成長したが未だ蕾はない。ノウルシとヤセウツボは影も形もなくなっていた。



ホソバノヨツバムグラ (アカネ科) 白い花、葉は4枚が輪生している。

ヤナギトラノオ (カラウ科) 花期は短かく、すぐに実となっていた。

クサヨシ (イネ科) 地味な植物だがたくさんの穂を出すと綺麗です。

(植物Gリーダー：有吉)

平成 22 年 7 月 植物グループ「湖岸植物 定点観察」パートナー活動の抄録

【A・B区 観察の概況】 観察日：2010-7-28(水)

梅雨明け、連日の猛暑にもかかわらず、ヨシ、オギ、シロネ、セイダカアワダチソウ等が繁茂している。新池では、センターから移植したアサザの他、サジオモダカ、オモダカ、ミズアオイなどが元気に育っている。



アサザ (ミカシ科) 準絶滅危惧種
多年草。根茎は泥の中を這う浮葉植物。

サンショウモ (サショウモ科) 別名メグサ。
水面に葉を浮かべて浮遊する水草。

シロネ (シソ科) 多年草
茎は四角形。葉の縁に鋸歯があり
葉の脇毎に白い小さな花が密生。

【E・F区 観察の概況】 観察日：2010-7-28(水)

猛暑の中、観察区湖岸では、イヌドクサ、ビナンカズラ、ヘクソカズラ、メマツヨイグサ、ノブドウ、イヌガラシなどが開花し、マメグンバイカズラ、トウオオバコ、ヤブジラミ、ムクノキなどが実をつけています。



イヌドクサ (トナリ科) 多年草 葉の
先端にツクシのような孢子穂を出す。

ビナンカズラ (モクシ科) 常緑つる性
木本。雌雄異株。上は雄花、下は雌花

ヘクソカズラ (アネ科) 多年生
草状つる植物。悪臭が名前の由来。

【G・H区 観察の概況】 観察日：2010-7-28(水)

ショウブの実は枯れていた。ノアズキは茎が伸び、小さな蕾が出来ていた。群生地の子クラタデやシロバナサクラタデは未だ蕾もなかったが、旧養魚地の脇ではシロバナサクラタデが1つだけ開花していた。



ノアズキ (マメ科) つる性多年草。花は
長い柄の先に黄色の蝶形花を開く。

シロバナサクラタデ (タデ科)
雄雌異株の多年草。サクラタデの亜種。

端午の節句で菖蒲湯に用いる

ショウブ (サトイ科) 多年草

「香澄」第16号記事の一部訂正について
・3ページ (A・B区写真の説明) タコノアシ (ベンケイソウ科) は (ユキノシタ科) に

(植物Gリーダー：有吉)

水戸生涯学習センターボランティア協議会との意見交換会

8月8日水戸生涯学習センターボランティア協議会の方 20名が環境科学センターに来館されました。その時に当センターのパートナーと意見交換会が行われましたので状況を報告します。急な事でしたので我々パートナーは3名が出席しました。

ボランティア協議会は水戸生涯学習センターの事業補助と自主運営による直接お客さん方に教える講師としても活動をされています（パソコン教室、木工芸・手工芸等）。

現在 122名が登録されていて、そのうち高校生、大学生が 36名と学生が多いようです。年間計画はボランティア協議会全体と各グループでも立てているようです。我々が実施している全体交流会と類似の全体会が開催され、また情報誌「ひろがり」が年2回発行されています。また水戸生涯学習センターのHPには活動記録画が掲載され、なかなか活発に活動されているようです。我々パートナーも外部のボランティア活動団体を視察することにより、もっと視野を広げていく必要があるのではと思いました。

(企画部会：栗原)



図書G 読み聞かせ活動の紹介

センターこども環境フェスティバルや夏まつりでおなじみの図書グループの自主活動、読み聞かせ活動を紹介します。

グループのネーミングは「おはなし水あおいの会」（香澄11号で紹介済み）で総勢7名（男性4名、女性3名）のメンバーで活動しております。

一般的に読み聞かせグループの多くは女性メンバーの方が圧倒的に多いのですが、わが「おはなし水あおいの会」は男性陣の方が多く、女性陣の更なる参加が待たれるところです。

活動は前述のセンターイベント時のほか、毎月第3日曜日の午後1時30分から練習をかねての実演を行っております。時には事前練習が当日で「大丈夫かな？」と思うこともあります。そこはそれ大人のグループ、いざと云う時には今のところビシッと締まっております。

先日、私は県立中央図書館主催の読み聞かせ講座を受講する機会を得ました。そこでの先生曰く「読み聞かせとおはなしや朗読は違いますぞ。」と云うことでした。朗読はともかく読み聞かせもおはなしもイコールと思っていた私には「えっほんと、全然知らなかったなあ。」といった具合です。

センター夏祭りでの読み聞かせスナップ

おはなしも朗読も、聞き手にかまわずこちらから一方通行のお話であるのに対し、読み聞かせは読み手と聞き手が「場面」を共有する相方通行であるとするのであります。何事もその道に入ると奥が深いものですが、読み聞かせもまた奥が深い。

読み聞かせ活動も4年目に入りそろそろBGM（背面音楽）を利用した読み聞かせはどうか、と考えておりましたが、ちょっと待つことにしました。これからは聞き手と「場面」を共有出来るような絵本、紙芝居の選定と話し方の練習に努めたいと思います。

(読み聞かせ「おはなし水あおいの会」責任者：浅野)



投稿 アート炭焼き



炭焼きの季節には不似合いな題材であります。この作品の良いところは、簡単に作れて何年過ぎても色あせることなく楽しめることでもあります。楽しみ方と作り方をご披露いたしましょう。準備するのは、簡易ガスコンロ又はブロック8枚と薪に火吹き竹、それにふたに穴を開けたブリキ缶であります。

アート炭焼きなどと銘打ちしましたが、軒先で材料を空き缶に入れ火を焚いて蒸し焼きにすればそれで仕上がりであります。しかし、これが難しいのです。何度やっても満足できるものがなかなか出来ません。

完全な炭化状態に仕上げればそれで良いというわけにもいきません。なぜなら「アート炭焼き」と、銘打って始めた以上それなりにアートらしき仕上がり求めたいからです。

竹笹の葉を材料に挑戦すると、葉が反り返り原型を保つのが難しい。麦の穂を材料にすると、実がはじけてしまったり、ちょうど良い具合の炭化になったと思うと穂先がポロポロと削げ落ちたりしてしまいます。



これは材料の水分含有量の違いであります。

材料選びは、いい作品の条件であります。

車を走らせていても、ふと目にする炭焼きに適した材料を見つけることがあります。

比較的簡単に仕上がる材料は「松ぼっくり」「いがぐり」「椿や山茶花の花」「松、杉、檜の葉」「レンコンやカボチャを薄切りにしたもの」などであります。

これらの焼きあがった材料を、器に載せて玄関にかざったり、色紙に貼り付けたりして楽しんでおります。
(図書G：山中 章)



投稿 畑にて



ヤブガラシに囲まれた畑

夏の畑はヤブガラシに覆われる。嫌になるほどヤブガラシが繁茂する。ヤブガラシはブドウ科の多年生蔓草で長さ約 10メートルにもなる。道理で一面網を被せたように畑を覆うわけである。

2年前の夏から畑に取り組み始めた。何とか200平方メートル程度の広さから夏草を駆逐した頃には秋になっていた。

西隣は本百姓の人の畑であるが、ほとんど草が生えていない。一週間に一度程度しか畑に入らないので、齢八十の彼女がどのように草をとっているか見たことはないが、この旺盛な夏草を毎日毎日少しずつ取っているのかと想像する。時々畑の隅で休憩し何故か黙っている彼女は、何

を考えて畑と対峙しているのか。

亡くなった私の父は除草剤をよく使った。除草剤に焼かれた草の臭いは鼻をつまむようである。見た目も茶色くちりちりになって見苦しい。じわじわと溶けていく苦しさ。

我が畑の北隣の資材置場では除草剤を使う。もしや非農地用の毒性の強い除草剤かと心配しているが、傍観しているところだ。だから北隣との際には作物が植えられない。

皆手っ取り早い除草剤を使わずに、のんびりと草取りしてくれればいいのと思う日々である。



私のキュウリ

(図書G：橋本恵美子)

H22 パートナー全体研修・交流会のお知らせ（予告）

本年度のパートナー全体研修・交流会は11月21日（日）に開催を予定しております。

当日は「NPO 法人 宍塚の自然と歴史の会」及川ひろみ理事長をお招きし、講演をお願いしております。同会は里山保全の先駆的取組みとして全国的に注目され、第12回日本水大賞など数々の賞を受賞されております。

環境保全市民団体の活動方法など貴重なお話をお伺いできると思います。

スケジュールなど詳細は後日ご案内いたしますが、ご予約に入れられ多数の皆様がご参加くださるようお願いいたします。
(企画部会)

「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

常時原稿を募集しておりますので是非ご応募ください。

特にテーマは設けません。パートナー自身のプロフィールやセンターでの活動体験記、身の回りの話題、また俳句・川柳・写真など何でも結構です。

原稿は、センター2階パートナー室の“香澄メールボックス”にお入れください。

編集後記

香澄17号発行日の10月1日は国勢調査の実施日でもあります。当方も調査員を押し付けられ、今準備作業の最中です。住宅地図から調査用の略図を描き、調査リストを作成します。それを基に一軒一軒訪問してチラシを配り、家族数などの情報をひそかに聴取します。9月末には調査票配り、10月頭には回収訪問です。すでに調査対象約80戸を廻り終わりましたが、その印象はなんと複雑です。次回の調査は5年後だそうです。住居環境や家族構成がこれからどうなっていくのか。我が家の実情を嘆くまでも無く、コミュニティの姿は大きく変遷するのは明らかです。それも明るい方向ではなく多分暗い方向へ。(H)